

修士論文題目

気候変動枠組条約における技術移転問題の分析

キーワード：気候変動問題、国際交渉、パッケージディール、利害、認識、構造化

2007年3月修了

国際協力学専攻 村山麻衣 47 56861

指導教員：國島正彦 教授

修士論文 要旨

気候変動問題は、国際交渉の重要な課題の一つとなっている。本研究は、気候変動問題への対策の1つである「技術移転」に注目している。

気候変動対策のために存在する様々な技術は、その対策のために必要な場所での確に利用されなければならない。特に途上国において、削減の技術的なポテンシャルが十分に大きく、今後、温室効果ガスの排出が増大することを考慮すると、先進国から途上国への気候変動対策のための技術移転は、重要な課題となる。

気候変動問題は、問題の構造が複雑であり、解決すべき課題も多岐に渡っている。国際交渉にはこれらの課題が持ち込まれるため、必然的に複雑になる。また交渉プロセスも、重要局面において、対立が生じた複数の議題をまとめて合意をとる「パッケージディール」が行なわれることが多く、交渉における議論や構造を理解するのが、一層困難となっている。技術が交渉の対象となる場合、交渉の構図を更に煩雑にしている。特定の技術に対する各国の認識や利害の対立に加え、技術そのものも持つ不確実性があるためである。特に技術移転が交渉の対象となる場合、「技術移転」という概念が著しく多岐に及ぶため、議論が複雑化するのである。

本研究は、理解が困難である技術または技術移転に関する国際交渉の重要な側面の理解を容易にする、可視化・構造化の手法を用いた、支援手法を開発することを目的とする。

様々な可視化・構造化の手法が存在するが、本研究では、技術に関する交渉については「ゲーミング」、技術移転に関する交渉については「問題構造化」というそれぞれ2つの手法を適用し、技術や技術移転の関係者に対して、それぞれの国際交渉の重要な側面の理解を促進させるための、設計、および分析を行った。

前者では、気候変動対策の技術に関する交渉の構造を分析し、「パッケージディール」、利害関係や認識、技術の持つ不確実性などを要素とし、交渉ゲーム“Another COP”の設計

を行った。技術の適格性、つまり、ある技術を使って行われた排出削減を国際的な条約のもとでの努力と認めるかどうかを交渉課題とする仮想的な国際交渉ゲームである。実際に“Another COP”を実施し、技術や気候変動問題についての国際交渉に関する理解を促進し、議論を喚起する有用なツールであることが分かった。

後者では、気候変動対策の技術移転についての概念整理を行い、気候変動枠組条約（UNFCCC）において、交渉議題に挙げられている「技術開発と移転」についての国際交渉を分析した。概念整理には、IPCC 特別報告書を用いた。「技術移転」は非常に幅広い内容を含む概念であり、その論点を確認し、分析に用いた。交渉分析には、交渉で用いられた各国の見解書から、各国の技術移転問題に対する認識を分析した。その結果、気候変動枠組条約において、技術移転の交渉における議論として挙がる各国の認識事項、および先進国と途上国の技術移転問題に対する認識の構造が明らかとなった。先進国は、民間ベースを重視し、途上国は、国際的枠組みを重視する点が、一番大きく認識が異なることが分かった。

気候変動問題が社会全体のものであり、国際交渉の結果も社会へ影響を及ぼすものであるが、複雑で理解が困難となっているため、それを2つの支援手法を用いて、理解を用意するための設計、および分析を行った。技術を議題とする仮想的な国際交渉の設計による理解促進、技術移転を議題とする実際の国際交渉における分析による対立関係の構造化を行った結果、複雑である議論の重要な要素を理解しやすい形式に変換することができた。可視化・構造化の手法を用いた支援手法は有用であると考えられる。